

手をたずさえて

- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成31年3月22日（金）発行

【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

進級おめでとうございます『一秒にも満たない言葉たち』

今、代表生徒に修了証書を手渡しました。修了証書は1年生、2年生がそれぞれの学年で学ぶべきことを学び終えました、という証明書です。進級おめでとうございます。

3月13日の卒業式は大変感動的なものになりました。主役の卒業生はもちろんでしたが、1・2年生の式における態度や動き、そして力強い式歌も立派でした。さらには式の準備や後片付けにもすばらしい力を発揮してくれました。一人一人が卒業式の意味をしっかりと捉え、行動に移すことができたからだと思います。心から感謝します。どうか、あの卒業式を1年後、2年後の自分の姿とオーバーラップさせてイメージをふくらませてほしいと思います。その卒業式の朝、校舎巡視していると、1年生の1人の女子生徒が3年のワークスペースにいました。彼女は3年生の各教室の飾り付けを担当したのでしょう。飾り付けた花が落ちたりしていないかを確認していたのです。先生からの指示があったかどうかはわかりませんが、そんな温かい心遣いに裏付けられた行動に拍手を送ります。

また、毎朝、昇降口清掃を続けてくれている野球部、さらには、えのき・けやき学級の生徒達にも大きな拍手を送りたいと思います。本校は校舎内外がとても綺麗で整備されています。

“郡山”といっても過言ではないと自負しています。普段の清掃活動はもちろんですが、野球部、えのき・けやき学級の生徒達の毎日継続している清掃活動、そして用務員の古川さんの献身的な働きのおかげだと考えています。今週、各学年の集会で話をしましたが、“挨拶”と“掃除”。この2つが『富中PRIDE』を形づくる最も基本にある重要な行為であります。挨拶の意味を一人一人が考えるとともに、去年の「郡山掃除に学ぶ会掃除実習」で学んだあの気持ちをもう一度思い出し、相手に伝わる挨拶が行き交う学校、全校生が手を抜かずに清掃に取り組む学校を目指していきましょ。



第33回卒業証書授与式

「はじめまして」

この一秒ほどの短い言葉に、
一生のときめきを感じることもある。

「ありがとう」

この一秒ほどの短い言葉に、
人のやさしさを知ることがある。

「がんばって」

この一秒ほどの短い言葉で、
勇気がよみがえってくることがある。

「おめでとう」

この一秒ほどの短い言葉で、
幸せにあふれることがある。

「ごめんなさい」

この一秒ほどの短い言葉に、
人の弱さを見ることがある。

「さようなら」

この一秒ほどの短い言葉が、
一生の別れになるときがある。

一秒に喜び、一秒に泣く。

一生懸命、一秒。

人は生きる。

さて、今日は『一秒の言葉』という詩を紹介します。

1985年（昭和60年）の大晦日、民放の「ゆく年くる年」という番組で、たった1回60秒だけ放送された“幻のCM”です。商品名はいっさい出されず、学校の校舎を背景にコピーライターの小泉吉宏さんのつくったこの詩が流れるイメージCMでした。

放送後には、その短い言葉に打たれた人達の反響が大きくなり、2008年（平成20年）6月10日の「時の記念日」

に、ハイビジョン映像でのリメイクが再登場しました。そして、この年からこの詩は小学校の道德の副読本の資料として使われるようになりました。

日常何気なく発する、『一秒にも満たない短い言葉』。

でも、人はその言葉に心を感じ、気持ちを込めて相手に伝えていきます。これは、気持ちを込めないと相手には伝わらない、ということの意味しています。「言葉」＝「気持ち」や「思い」と言えます。

きみたちは、今まで生きてきた中で、これらの『一秒にも満たない短い言葉』をどのくらい伝え、そして周りの人とつながることができたでしょうか。そして、これから何百回、何千回と言葉にするであろう、この『一秒にも満たない短い言葉』たち。（もう一度読みます）

『一秒の言葉』に気持ちを込めること、そして『一秒の言葉』に込められた気持ちや『一秒の言葉』に込められた意味…ここで立ち止まって考えてみましょう。きっと何かに気づくはずです。

最後になりますが、きみたちの2019年度の1年間をより良きものにするためには、まずは明日からの春休みの過ごし方にかかっていると思います。「何を、何のために、いつ、どのくらい、どのように取り組む」といった具体的な目標を設定し、一日一日を大切に過ごしてください。

そして、いつも言っていますが、命の大切さを自覚し、悪の誘惑にも決して負けることなく、自分の箍（たが）を緩めることなく、事故『0』の春休みを実現していきましょう。

～ 修了式 校長式辞より ～



保護者の皆様へ

今年度のご協力とご支援に感謝申し上げます

お子様のご進級おめでとうございます。

3月13日に行われました「第33回卒業証書授与式」は、感動的な式となりました。210名の卒業生たちは、まわりの人々への感謝の気持ちをもって、学舎を旅立ち、それぞれに力強い一歩を踏み出してくれました。

卒業式の主役はもちろん3年生です。しかし、3年生だけが頑張っても、あのような感動的な式にはならなかったと思います。式での姿勢、動き、さらには式歌など…1・2年生の頑張りが特筆すべきものでした。式の前日と当日は、1年生は校舎内外の清掃や3年生教室の飾り付けを、2年生は式場準備と後片付けなどの仕事を本当によくやってくれました。その姿を見て、本当に頼もしい思いがしました。特に2年生の動き、素晴らしかったです。来年度の最上級生としての活躍が大いに期待できると感じました。また、吹奏楽部の生徒達も入退場曲等を演奏し、式に花を添えてくれました。

今後も『富中PRIDE』をスローガンとして学校経営にあたってまいります。先日1・2年生の学年集会においては、進級にあたっての心構えや“挨拶”の大切さなどについて話をしました。まっすぐな気持ちで一生涯懸命頑張る生徒は精一杯応援し続けていくつもりです。ご家庭では、特に交友関係の把握、スマホ・携帯・オンラインゲームの使用状況の把握等に努めていただくようお願いいたします。今後も「ならぬものはならぬ」という姿勢を失うことなく指導・支援にあたってまいります。併せて、我々教職員も「襟を正して」いかなければならないと思っております。

今年度のPTA活動や部活動等でのご支援等、本校の教育活動に寄せていただきましたご理解とご協力に心より感謝申し上げます。そして、次年度におきましても、どうか変わらぬご支援をお願いいたします。最後に、修了式の式辞でも述べましたが、来年度1年間をより良いものにするために、この春休みの過ごし方がとても重要になります。ご家庭でのご指導をお願いいたします。



卒業式会場作成にあたる2年生